

2014年6月29日

小樽高等商業学校
小樽経済専門学校
小樽商科大学
関係 各位

小樽商科大学応援団後援会

第百回商大一北大総合定期戦対面式についてご報告と御礼

謹啓 北海道は爽やかな晴天が続く頃となりました。皆様に於かれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

去る6月22日、第百回総合定期戦対面式が挙行されました。此れも偏に皆様のご支援の賜物でございます。衷心より御礼を申し上げます。

9時、助っ人の学生が商大合宿所に続々と集結、着替えの後、食堂で新参のリードに従い寮歌等の練習を実施、最後の調整を入念に行いました。

10時00分、壮行歌(門出の歌)を唄いながら、第百代商大応援団を先頭にした隊列70名程が商大校門を出立致しました。今年は、団の学内OB、現役団員とマネージャー、助っ人以外の商大生が約10名、隊列に加わってくれました。寮歌指導が功を奏し、校歌、進軍歌、壮行歌、応援歌第一の歌声が、96回以降で最も声高らかに地獄坂に響き渡りました。きっちりと締めるべく歌の最後やエールの後には、必ず新参大竹が法螺貝を力強く鳴らします。沿道では市民の皆様が声援を送って下さいました。

10時45分、学生、OB、市民が見守る中、小樽駅前にて団長、副団長、参謀による三役揃い踏みの下駄上げが行われました。11時、商大勢は当会がチャーターしたバス二台に分乗し、一路札幌駅を目指しました。

12時00分、札幌駅に到着。参謀鈴木が北大参謀と対峙、先方の攻めを軽くかわして終始主導権を握り、見事罵り合いに勝利しました。北大参謀の先導により商大軍は大通公園を指して出発しました。両側は此処数年の間に高層ビルが立ち並び、^{ことさら}殊更に北都の威容を顕示して居ます。

しかし我が商大勢にとり俗界塵網の^{じんもう}栄華は^{しょせん}所詮一炊の夢、小樽の山川海浜、古色蒼然たる街並みと厚き人情こそが魂の故郷、故に摩天閣に緑丘の歌声を轟かしたのでした。

13時、北大の三連打にて対面式が始まりました。最初は校歌斉唱。商大の校歌「金鱗踊る」では参謀鈴木の堂々たる参謀エールが行われました。北大校歌「永遠の幸」の後には、約25年振りかと思われる花束交換の儀が執り行われました。商大側は女装の麗人が復活、我が佳人の差し出す花束を北大団長は直ぐに手に取り、食いちぎって捨てました。一方、俗世を超越した商大団長は花も妙齡の女性も全く意に介さず、ややあつて^{おもむろ}徐に花束を取り上げ、やにわに天高く放り投げたのでした。

続いて商大による雲龍型の演舞。副団長森を先頭に、佐藤、寺林、小野寺、中野が陣形を作ります。此れも30年以上振りという大人数での舞となりました。其の様は雲にのる龍の如く勇壮にして壮大、北大を圧倒します。鼓手長白倉の太鼓が的確な拍を刻み、舞に緩急強弱の美しい輪郭をつけていきました。

北大の風流舞と、20 数年振りの泥棒の拍手の後、挑戦状と応戦状の読み上げが行われました。商大第百代団長西垣の挑戦状、其れを受け取るのは新参の三岡。果たして投げ上げられる巻紙を受け止めることが出来るのか。此処二、三日の気温上昇の所為か、風が強くなって居ます。固唾を飲んで見守る中、白い巻紙が白龍の様に空を舞いました。身を挺してしっかりとキャッチした三岡。会場は興奮の渦と化しました。

挑戦状は、Dr. William Smith Clark の教えである Boys, be ambitious! をもじったウイットとユーモアに富む内容ありで、観衆を大いに沸かせました。最後に、共に 200 回の対面式を目指し、歴史を紡いでいこうではないか、というエールで締め括られたのでした。

団長檄の後是一般競技種目でした。最初の種目は綱引き。漕艇部と柔道部の猛者で固めた商大は 2 対 1 で勝利しました。続いては借り物競走でお題は三つ。最初の、今日が誕生日の人というお題は該当者が居なく引き分けでしたが、続いての対面式に最も多く参加した人というのと、一番古い対面式を見た人というお題は、何れも当会副会長の仮屋雄二(第 66 代副団長・第 67 代団長)の登場で雌雄が決められました。一騎当千とは正に此の事です。

北大団長の応戦状の後、寮歌交換を実施。副団長森の朗々たる口上の後、学生、OB、市民が肩を組み若人逍遥の歌を斉唱、大通公園に歌声が木霊しました。大団円を迎えるべく、団旗長田中が団旗を擁して静々と中央に進みます。風にはためく中、豊四豊はあろうかという団旗を振りフレフレ北大、フレフレ商大の団旗エールを行ったのでした。北大の都ぞ弥生と団旗エールを以って二時間余りに渡る式典は終了したのでした。

北大参謀の、此れにて終了の掛け声の後、学内 OB の呼び掛けに従い、商大勢が会場で円陣を組みました。当会副会長仮屋雄二の先導により、北斗寮寮歌の口上が切られ、一同、北斗寮寮歌と残念歌を斉唱、そして大ストームが展開されました。上は 80 代から下は 18 歳まで、老若男女が、木端微塵に打ち破り 勝利の栄冠我にあり 残念か残念か 残念なら又来んせ と喉も裂けよとがなり立て、会場いっぱいに広がりストームを行ったのでした。

16 時 30 分から始まった北大延齢会と当会共催による大打ち上げ会には北大 32 名に対し、商大は何と 42 名が参加。下は 20 歳の学生から上は 80 代の面々が大学の垣根や時空を超えて交流、互いの健闘を讃え友情を深め合いました。

我が商大が幌都を席卷す。メインストリート行軍、対面式、大ストームそして大打ち上げ会と、其の痛快さに酔い痴れた一日でした。

4 回目となる商大と北大 OB による夜間行軍は、参加者が東京、千葉、埼玉、富良野のみならず富山そして仙台にも拡大、来年の展開が楽しみになってきました。OB の夜間行軍、現役の対面式、そして式典後の学生と OB による一大ストーム、三位一体の活動が商大の新たな伝統となる、そんなことを予感させてくれました。

商大応援団は今年、百代を迎えました。そして此の百年は、世界史の中の日本にとって激動の時代でした。しかし、母校を愛する緑丘人は百年変わらず存在し続けました。彼等先達の尽力により、私達は、同じ学び舎で青春の日々を過ごす機会を得ました。過ごした時代は異なり、学園の様も全く異なりますが、年代を越えた同窓が同じ緑丘を母校とし、同じ校歌と応援歌を唄い心を一つに出来る幸を得ました。

此の幸を次の世代に引き継ぐことこそが今、強く求められて居ます。

皆様に於かれましては今後ともご指導を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

謹白